

令和六年度 入学試験 (一般選抜試験 B日程) 問題

国語

受験番号

◎指示があるまで開かないこと

【注意事項】

1. 受験票を座席表の横に置くこと。
2. 試験開始後乱丁、落丁が無いかを確認すること。印刷不鮮明がある場合は監督官に申し出ること。
3. 机上には、受験票、鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、時計(アップルウォッチ等は不可・アラーム機能は停止) 以外は置いてはならない。
4. 携帯電話・スマートフォン等の電源は切ってカバンにしまうこと。
5. 解答時間は六〇分である。
6. 試験開始後最初に、問題と解答用紙に受験番号を必ず記入すること。
7. 試験開始後、三〇分を経過すれば退出することができる。退出者は、問題と解答用紙を机上に伏せて静かに退出すること。ただし、終了一〇分以後の退出は認めない。
8. 試験中に発病等で、一時休養を希望する場合は、挙手をして監督官の指示に従うこと。トイレ等で席を立ちたい場合も、挙手をして監督官の指示に従うこと。

【二】 A欄の熟語とB欄の熟語を組み合わせ、四字熟語を五つ完成させなさい。ただし、各欄には一つずつ余分な熟語が含まれています。(二〇点)

- A 天下 五里 呉越 粗製 再三 衣食
B 同舟 強固 礼節 太平 乱造 霧中

【三】 次の各文には使い方の間違った同音の漢字が一字ずつある。正しい熟語を記しなさい。(二〇点)

- A 平凡な生活に転季が訪れる。
B 学会において疑問点を指的する。
C 契約の得典が提示される。
D 雑誌の編集作業に従事する。
E 苦場の投書が寄せられたために中止になる。

【四】 次の文章の()に入れるのにふさわしい語を□から選んで答えなさい。(二〇点)

- A 彼女のアイデアに思わず()を打った。
B 優れた技術に()を巻く。
C ()に汗して働くことが大事だ。
D ()に火をともしように生活する。
E あなたもそろそろ()を決めなければならない。

手
足
骨
腹
膝
額
舌
爪
頭
口
背
眉
目
顔

【五】 次の文章を読み、後の問に答えなさい。(五〇点)

なぜ会話なのか？ 私たちは始終しゃべっているのではないか、と思われるかもしれない。メールをしたり、SNSに投稿したり、チャットしたり。画面に映る世界のほうが居心地よく感じさせて、いるかもしれない。家族や友人たち、同僚たちと一緒にだろうが、恋人どうしでいようと、

私たちはお互いの顔でなくスマートフォン画面に目を向ける。このごろでは、直接会ったり電話をかけたより、メッセージやメールを送信することのほうが多いということに、異論はないだろう。

そうした新しいA「バイタイ」を介した生活が、私たちを①「困った事態に陥れている」ということはないだろうか。対面会話「フェイス・トゥ・フェイス・カンバセーション」は、何よりも人間らしい——そして人を人間らしくする——行為である。互いにまともに向き合って、私たちは聞く姿勢を身につける。そこで共感する能力をはぐくむ。自分の話を聞いてもらおう喜びを、理解してもらおう喜びを味わう。そして会話が内省を、つまり初期の発達段階の土台となり、B「ショウガイ」を通じて土台でありつづける自分自身との会話を、促すのだ。

ところが、このごろの私たちは会話を回避しようとしている。互いに絶えずつながっていると、互いに隠れ合っているのだ。なぜなら、画面上では自分をそうありたい自分に見せたいものだから。

I、直接会う場合にもどこかで演技はつきものだが、オンラインで、

しかも暇な時間だったりすれば、みずから創作し、編集し、修正することも造作なくできる。私たちがスマートフォンに向かうのは、「退屈な」ときだといわれる。つねにつながっていて、情報やC「ゴラク」が絶え間なく与えられるのに慣れきってしまったからこそ、ふと気づくと退屈していることがある。私たちはしょっちゅう、今いるところとはどこか別のところにいることがある。教室や教会で、II 会議の席で、自分の関心を引くものがあればそれに注意を向け、そんなものがないとなったら、手もとにある装置に向かって何かおもしろいものを探すのだ。最近の辞書には、「フアビング」という見慣れない単語が載っている。これはスマートフォンに気が取られて相手を見無視する行為を言うが、その場にいる相手とアイコンタクトを保ったままメールを打つことも含まれ、学生たちが言うには、彼らはいつもそうしているし、さほど難しいことでもないらしい。

私たちはいわば、自分たちのことを仲間にも忠実なひとつの種族だと考えている。ちょっとした暇があれば、あるいはただオンライン世界の誘惑に抵抗できなくなって、自分へのメッセージをチェックする。子どもでさえ、友だちとフェイス・トゥ・フェイスでしゃべらずに、メールをやりとりするのだ。自分の思考をはぐくむ時間をもつこともできるのに、空想にふけることすらしない。

そういうことが積み重なった結果が、「会話離れ」となる。開放型の自発的な会話や、アイデアと戯れる会話、傷つくのを恐れず面と向かって行う会話は、めったに行わなくなった。そういう会話のなかでこそ、共感や親密さが芽生え、社会的行為の力がつくというのに。教育上、職業上の有意義な協調心が育つのも、その種の会話のなかである。

Ⅲ、そうした会話には時間と空間が必要だから、現代人には忙しくて無理だという。夕食の席や居間で、会議の席で、街なかで、どこにいても心ここにあらず。新たな「沈黙の春」到来の気配がする——かつてレイチェル・カーソンが、テクノロジーの変化がもたらす「Dカンキョウ」への脅威にきちんと目を向けるべく、そう名づけた世界だ。私たちは今また、認識を新たにすべきときを迎えている。今回テクノロジーが脅威を及ぼしそうなのは、「A」だ。よくわかっていることだが、「沈黙」しているスマートフォンでさえ、大事な会話を妨げる。スマートフォンが視界に入ること自体が、互いのつながりが足りない、互いのかかわりが足りないという気分にさせるのだ。

ただ、深刻な事態であるとはいえ、私は「B」である。気づきさえすれば、私たちは自分の習慣を再考することができるし、ひとたび考え直せば、会話は取り戻せる。デジタル世界とつながらないようにするために効果があるのは、しゃべることなのだ。

二〇一三年十二月、私はある中学校の学生部長から連絡をもらった。生徒たちの友人関係づくりが心配なので、教職員の相談に乗ってほしいという依頼だった。来校を頼んできた学生部長の女性は、こう言った。生徒たちが、以前のような友人関係を結ぼうとしないように思えるんです。知り合いにはなくても、うわべだけのつながりしかないようで」

中学校でただの「知り合い」にしかならないとは、看過できない問題だ。ほかの学校でも同じような問題を耳にしたことがあるが、そのときはもっと年上の生徒たちのことだった。そこで、私は研修ミーティングで教師たちと会うことにした。未使用のノートを一冊持参し、その表紙に「共感の記録」と書きつけた。

教師たちが気にしていたのは、まさにそのことだったからだ。学校の子どもたちは、しかるべき時期に共感をはぐくんではないということになる。学生部長によると、生徒の人づきあいのしかたにはできるだけ介入しないことにしているが、最近ではそうせざるをえないという。たとえば、ある生徒が学校行事でクラスメートのひとり仲間はずれにしようとしたことがある。学生部長は思いやりに欠けるその生徒を自分の事務室に呼び出して、なぜそんなことになったのか問いただした。だが、その少女にはろくに言い分もなかったという。

その生徒は「ほとんど感情のこもらない返答をしました。なんとも思ってませんけど」と。ほかの生徒が傷ついたというシグナルを読み取れていないんです。

そういう子たちは、意地が悪いわけじゃありません。でも、E「ジョウチヨ」的に未発達です。十二歳の生徒たちも、運動場で遊ぶ様子は八歳と変わりません。互いのけ者にし合っているところなんか、八歳の子の遊び方そのまま、ほかの子たちの立場になって考えることが

できないようです。ほかの生徒たちに「遊んでやらないよ」なんて言っ
て、
ね。
耳を傾け、互いの顔を見て話を聞くというかわり方を、あの子たちはしていないん
です。

教師たちは、教育関係のテクノロジーを熱心に活用している。だが、教室を離れると、予防の原則とでもいうものに従う。害となる証拠ではなく、害となる徴候があれば、行動を起こす必要あり」だと。教師たちは、害となる徴候が目に見えるのだと考えている。教室で子どもどうしが話をしたり、互いに声をかけ合ったりするようにさせるのは、ひと苦労だ。子どもたちが教職員に会いに来るようにさせるのも、ひと苦労。ある教師はこう言っていた。彼ら（生徒たち）は大食堂で席についているとき、自分のスマホを見ているんです。みんなで一緒にいるときに、みんなが同じようにやっているのが、スマホ上にあることとはね」

これは新しいかたちの会話なのだろうか？ もしそうだととしても、新種の会話は従来の会話のような成果をあげていない。教師たちの考えているとおり、従来の会話は共感を教えてくれた。^②これで生徒たちが互いを理解し合うようになるとは思えない。

☆ エリー・タークル 『一緒にいてもスマホ』より。出題の都合により原文の表記を改めた箇所がある。

問一 傍線部A～Eに関し、カタカナを漢字に直しなさい。

問二

I

Ⅲ

 に入れるのにもっとも適当な語を次の中からそれぞれ選んで番号で答えなさい。

- ① あるいは ② だが ③ もちろん ④ ゆえに ⑤ そして

問三 傍線部① 困った事態」とはどのようなものか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

問四

A

 に入れるのにもっとも適当な語を本文中から抜き出しなさい。

問五

B

 に入れるのにもっとも適当な語を次の中から選んで番号で答えなさい。

- ① 楽観的 ② 中立的 ③ 圧倒的 ④ 主観的 ⑤ 絶望的

問六 傍線部② 「これ」とは何か。本文中の言葉を使って説明しなさい。

問七 本文の内容の説明として正しいものを次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア この文章は、対面での会話の重要性を訴えるものである。
- イ この文章は、子どもの頃はSNSを使うべきではないと主張している。
- ウ この文章は、今後我々の社会では互いに理解し合うことは不可能であると語っている。
- エ この文章は、SNSがもたらす新しい会話の可能性を提示している。
- オ この文章は、うわべだけのつながりからいかに真の友人関係を築くかを教えている。

【五】次の文章を読み、後の問に答えなさい。(二〇点)

私たちは自分のことを「私」として認識している。私はつねに、私のからだといっしょにいる。人混みの中で「私がどこにいるかわからなくなる」ことはあっても、「私がいなくなってしまった」ということはない。自分探しをするまでもなく、私は「こ」にいるのである。

迷子になろうと、どんなに遠くへ行こうと、私はいつも私といっしょにいて、私はこう思う「私はこれがほしい」「私はそれは嫌だ」「私にはわからない」と口にはしている。でも、その「私」とは、いったいなんだろう。

以前、あるワークショップをおこなったとき、「二人で向かいあって、それぞれ自分のことを私は……です」という形式で自己紹介してください」という課題を出したことがある。参加者たちは、それぞれに「私は背が高いです」「私はひっこみ思案です」「私は学生です」「私はずぼらです」などと自分のことを説明する。

これらの説明は、I「私」についての説明ではある。しかし、「背が高い」のはまわりの人たちに比べてのことであり、北欧の国などに行ったら、そうではなくなるかもしれない。ひっこみ思案」というのも、まわりに気の合う人がいなくて、積極的に人とかかわる気になれなかったからかもしれない。自分はこういう人間だ」というイメージは、本人固有の性質というより、まわりの他者との比較や関係においてつくられるものだ。

転校が多かったという学生からこんな話を聞いたことがある。自分は、転校するたびに、勉強ができると思われたり、できないと思われたり、運動ができると思われたり、運動が苦手と思われたりした。「これが自分だ」と思っていたイメージが転校のたびにくつがえされる。おかげで「私はだめなんだ」とか「私はこういう人間なんだ」などと自分自身のイメージを固定せずにくられた、という。

「私」は、まわりの他者との関係においてつくられる。「私は日本人だ」「私は先生だ」「私は学生

だ」私は母親だ」私はサッカー選手だ」というのも、すべてまわりとの関係によって成立する。生徒がいなければ先生にはなれない。子がいなければ親にはなれない。そのような「私」のありかたをアイデンティティという。

私たちは多様な他者との関係の中で、そのときに応じて、さまざまなアイデンティティをもちながら生きている。家庭では子どもであり、学校では生徒であり、部活動ではテニス部員であり、ネット上ではなんらかのキャラクターであり……というふうには、人間関係や所属する集団に応じて複数のアイデンティティを使い分けている。

アイデンティティは自分ひとりでは成立しない。Ⅱ、オレは火星人だ」とか「私はクレオパトラの生まれ変わりです」と主張しても、それだけではアイデンティティにはならない。アイデンティティは、それを認めてくれる他者を必要とする。だれかひとりでも「そうですか。あなたは火星人なんですね」と認めてくれるれば、それはその他者との関係におけるアイデンティティになる。

認めてくれる人の数が多くなれば、アイデンティティは強固になる。アイデンティティが強固になればなるほど、孤立することへの不安や恐怖は薄まり、社会から必要とされているという安心感が得られる。Ⅲ、人は他者に認めてもらいやすいキャラを演じ、それをアイデンティティにしようとする。SNSで「いいね」をもらいたいと思うのも、他者に認められることによって安心感が得られるからだ。①これが承認欲求と呼ばれるものだ。

人間は孤立しては生きられない。承認欲求は、そんな人間が他者との関係をとるむすぶために発展させてきた生物学的なプログラムだ。そして強固なアイデンティティは承認欲求を満たしてくれる。

だが「認められたい」という思いが先に立って、それに合わせたキャラに徹したり、嫌われなような役割ばかりを演じたりしていると、そのアイデンティティにとらわれすぎて、自分が本当はどうありたいのか、本当はなにを大切にしたいのかを見失ってしまうというリスクもある。

梶中真知 『風をとおすレッスン』より。出題の都合により原文の表記を改めた箇所がある。

問一 Ⅰ、Ⅲ に入れるのにもっとも適当な語を次の中からそれぞれ選んで番号で答えなさい。

- ① それゆえ ② だが ③ かつ ④ たしかに ⑤ たとえば

問二 傍線部①「これ」とは何か。本文中の言葉を使って説明しなさい。

問三 本文の内容に合致するものを次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア できるだけ強固なアイデンティティを持つことがこれからの社会では必要である。
イ 認めてくれる人が誰もいなくても、強く信じれば、それがアイデンティティとなる。
ウ 人は多くの場合、複数のアイデンティティを使い分けている。
エ アイデンティティ形成には、幼少期に周りの人との関係が重要である。
オ 自然とははかないものであり、この自然をいつまでも残せるような努力が必要である。

受験番号

A
B
C
D
E

A
B
C
D
E

A
B
C
D
E

I
II
III

問三

--

問四

--

問五

--

問六

--

問七

--

問五

I
II
III

問二

--

問三

--